

迎春

新町 原幸雄さんの制作
初音(はつね)



親子で
「お飾り」作り体験!



育成会 餅つき体験

平成二十八年

干支は申さる



「仲良く身を寄せ合い」力を合わせて…
アルプス公園在住



2016年 1月9日 三九郎

整備が進む信大とその周辺① 安心と安全の道路整備

平成二十五年から二年間、信大病院南側市道で工事が行われました。平成二十二年、安原地区を含む三地区が集中豪雨被害に遭いました。この工事は、その浸水防止策として、暗渠の新設や横田溝渠との接続等で豪雨時に、貯留量が一定量を超えると排水ポンプが作動し女鳥羽川に排水される構造にしたものです。

近年、地球温暖化により様々な自然現象が発生する中「備えあれば憂いなし」です。一方、国道143号線沿いの美須ヶ丘高校隣、中原児童公園西側で昨年十一月からこの一月中旬にかけて歩道の整備工事が進められました。歩道端を流れている水路を東に寄せ、信大西側水路へ一直線に繋げながら、歩道自体も

公園側に広げられます。また、追分交差点までの区間は、点字ブロックが設置されます。バス停斜線も新し



く引き直され、歩行者、自転車利用者への配慮や安全性が一層確保されます。更に、新年度から平成三十年頃を目標に附属幼稚園北東の歩道橋地点まで工事が進められ、信大西側の歩道は、三メートル程度の幅に広げられる予定です。松本市もこれに合わせ、次世代交通政策の「ユニバーサルデザイン化」の一環として、信大西門バス停において、屋根を設けるなどバス待ち環境の改善が図られます。

一〇年以上前、地域の皆さんが声を上げ、病院前の国道、市道拡幅に努力された経過があります。今後も安全、利便性がより高まれば地域にとって大変喜ばしいことではないでしょうか。

いちよう並木

春を告げる花

福寿草と節分草

春を告げるキンポウゲ科の多年草、福寿草と節分草についてうん蓄をお話致します。寒さに耐え健気に咲く、春の使者、福寿草や節分草は本当に美しい。昔は落葉広葉樹

春を告げる初音の笛 初音を作り続けて

新町の原幸雄さんが、初音(はつね)を作り続けています。春の季語「うぐいすぶえ」の名前の方が広く国内の多くの地域で知られています。少数派ですが、県内や日本の地方にも、松本のように初音の名で親しまれている地域も全国にあります。

原さんに子供の頃のことをお聞きしました。松本平では、大晦日の夜から正月の三が日に、新春を祝い歩きながら販売された。「のぼり初音」と呼んで、一丁目から順に上以外の町々に、初音が売られた時代があった、とのこと。原さんの初音作りも四半世紀以上になります。初めは、倒れたお父さんの作品を参考に、見様見真似で始まりました。完成品をもとに、竹の素



材選定から切り出し・加工・作業の流れから笛の音検査、描きまで、ずいぶんと手間がかかります。教わった工程は無く、自分なりの工夫を加え、素材も安全を優先して変更を重ね、現在の笛になりました。テレビ・ラジオ・新聞の取材も年末にかけて幾つも受けようになりました。初音作

りも貴重な存在になって来たのでしよう。今は、そうたくさん売れるものにはありませんが、平穏な年末に記事が載った時は、思いがけずたくさん売れて、三が日に追加製作に追われる事もあります。今年も、深志神社・四柱神社・護国神社で買うことができました。

林の中で普通に見る事ができたものです。今では一度生育地が知れ渡ると盗掘の被害を受け、残念ながら消滅の道を歩む事に繋がっております。此の頃は地元の皆さんが手を加え、保護管理を行い村の財産、観光資源として活用される事が多くなりました。県内には二種類の福寿草が生育し「花卉」と「がく片」

の長さにより、一般種とミチノク福寿草に分かれます。花卉ががく片より長い種をミチノク福寿草と呼びます。県南部で多く見られます。節分草もがく片が十枚以上で花卉が白色で少し大きいものを信濃節分草と命名、大変希少価値が高い。群生地有名なのが、福寿草の旧四賀村と節分草の木曾日出塩です。



春になったら一度見に出かけては如何でしょうか。